

2021年4月26日  
株式会社インテリジェント ウェイブ

## IWI、自社開発の IP フロー監視ソリューション「EoM」を日本デジタル配信へ提供 ～VIDEO-OVER-IP に欠かせない、IP フローの詳細をリアルタイムに可視化するソリューション～

株式会社インテリジェント ウェイブ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：佐藤邦光、以下 IWI）は、ケーブルテレビ向けデジタル放送配信事業を軸とした様々なソリューション提供を行う日本デジタル配信株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：高秀 憲明、以下 JDS）へ、自社開発の IP フロー監視ソリューション「EoM」を提供したことを発表します。

### 【今回の EoM 導入の背景】

JDS では番組供給事業者から提供されたコンテンツをエンコードし、国内の各拠点に伝送しています。高品質なサービスを維持するためには、伝送時の原因切り分けが困難なエラーや、受信側機器でしか分からない事象を通信経路の途中で監視する必要があります。これらの課題を解決するために、IP フローの詳細な情報をリアルタイムで監視することのできる EoM を導入しました。採用にあたっては、JDS が使用する 100GbE ネットワークにおいても EoM が利用可能であることや、既に実装されている豊富な標準機能だけでなく、ユーザー企業の要望を製品に反映することのできる IWI の開発力<sup>(注)</sup>も決め手の一つとなりました。

<sup>(注)</sup> EoM の VLAN ID 確認機能は、JDS の要望により追加開発された機能です。

### 【EoM について】

EoM は、IWI がクレジットカード決済システムや証券業界向けシステムの開発で培ってきた高速データ処理の技術と、FPGA<sup>(注)</sup>技術を組み合わせることにより、放送業界向けに開発した IP フロー監視ソリューションです。4K/8K 放送の普及により、放送業界では IP 化された放送設備が必要となっており、放送の品質の維持・向上のために個々の IP を詳細に監視するソリューションの必要性が高まっています。EoM は、放送の IP 化において標準規格となっている SMPTE ST2110、ST2022 をはじめとした主要なデータ種別に対応しており、障害時の原因把握やリアルタイムでのデータ分析・可視化を実現することで、IP 化された放送システムの運用コストの大幅な削減に貢献します。IWI は今後も EoM の機能拡張を継続的に行い、本格的な IP 化を迎えた放送業界における IP 放送の品質維持・向上に寄与していきます。

<sup>(注)</sup> FPGA(field-programmable gate array)：製造後に構成を設定できる集積回路

### 【機能について】

- SMPTE ST 2110(-20/-30/-40)、ST 2022(-2/-6/-7)、などをはじめ 12 のデータ種別に対応
- データ種別毎のビットレート、パケットドロップ数、レイテンシー、ジッターなどを可視化
- 任意の閾値を設けたアラート設定

<製品情報詳細>

<https://www.iwi.co.jp/product/detail/eom.html>

【株式会社インテリジェント ウェイブ (IWI) について】

IWI は、ペイメント決済システムにおけるオンラインネットワーク基盤のシステム構築を中心に、証券市場向け超高速株価情報システムなど、金融業界向けの大量データをリアルタイムかつ正確に処理するシステムの開発・構築・保守を手がけており、圧倒的な国内シェアを獲得しています。また自社開発の内部情報漏洩対策製品等を手掛け、金融業界を中心に 30 年以上にわたって大容量・低遅延・高速分析を追求しビジネスを成長させております。

IWI は「次代の情報化社会の安全性と利便性を創出する」を経営理念に、高速、安全、高品質で利便性の高い IT 基盤を提供して、企業のデジタルトランスフォーメーションを支援しています。IWI は大日本印刷グループの一員であり、東京証券取引所市場第一部に上場しています。 <https://www.iwi.co.jp>

※記載の商品名、会社名は各社の商標または登録商標です。

【本件に関するお問い合わせ先】  
株式会社インテリジェント ウェイブ 第三システム開発本部  
Tel : 03-6222-7051  
Email : eom@iwi.co.jp